

河川整備計画（本文）

出典・根拠

3.2 河川の維持の目的、種類および施工場所

3.2.1 河川の維持の目的

圏域内の全ての一級河川（琵琶湖+50河川）において、洪水による被害の軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持および河川環境の整備と保全がなされるように、行政と地域住民が連携を図りながら、各河川の特性を踏まえ、総合的に河川の維持管理を行います。その際、治水、利水、環境の面から河川を維持していくことで、地域住民が安心やうるおいを感じ続けることができるように配慮します。また、生物の生息・生育環境や良好な景観を保全しながら、自然を楽しむことができる河川空間の利用を促進していきます。

3.2.2 河川の維持の種類および施工場所

圏域内の河川を適切に管理していくため、地域住民との協働のもと、河川における取排水、流域の汚濁負荷や河川水量の変化に伴う水質変化、生物の生息・生育環境などの環境管理に関する基本的事項の実態把握に努め、以下の項目について必要な対策に努めます。

なお、河川の維持にかかる項目の中で、特に、洪水による被害の防止の観点から実施する樹木伐採、堆積土砂の除去、護岸補修などの対策については、地域住民の生命と財産を守るため、緊急性の高い箇所から順次計画的に実施します。

また、豊かな自然環境や美しい河川景観、憩いやふれあいの場としての河川空間など良好な河川環境を保全し、次の世代へと引き継いでいくためには、地域住民と協働して河川の維持管理を行うことが重要です。このため、草刈りやごみの除去、川ざらえ、河畔林管理など地域住民などが行う活動に対して、積極的に支援します。

さらに、平成22年3月に策定した「大津土木事務所管内河川維持管理計画(案)」に基づき、河川管理施設や河川の状態、周辺の状況に対応した、河川の維持管理を行うことにより、河川を適切な状態に保全・回復させるように努めます。



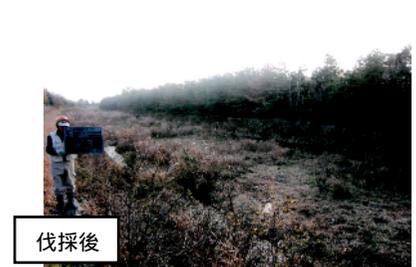
写真 真野川の春の風景



写真 真野川の自然観察会



伐採前



伐採後

写真 樹木伐採の状況（比良川）



補修前



補修後

写真 護岸補修の状況（真野川）

河川整備計画（本文）

（河川管理施設の維持管理）

圏域内の河川において、堤防、護岸などの河川管理施設の機能を十分に発揮させるために、河川管理施設の点検により老朽化や施設の不具合などを早期に発見して機能の低下防止に努めます。さらに、地域住民組織などとの連携のもと、所定の流下能力が確保できるよう適切な維持管理に努めます。あわせて、河川巡視を円滑に行うための管理用通路の確保や、背後地の状況を踏まえ、越水対策にも資する堤防幅の確保、堤防天端の舗装なども必要に応じて検討します。

また、圏域に現存する河川の築堤区間については、破堤による壊滅的被害を防ぐため、現に出水時において漏水などの現象が確認された箇所など、破堤の危険性を認知した箇所については、基本断面形状を確保しつつ、堤防の侵食対策や浸透対策を実施します。なお、その優先順位については背後地の利用状況などを勘案し決定することとし、対策工法を検討する際には、地下水への影響、周辺地域の水利用、自然生態系、親水性などに配慮します。

出典・根拠

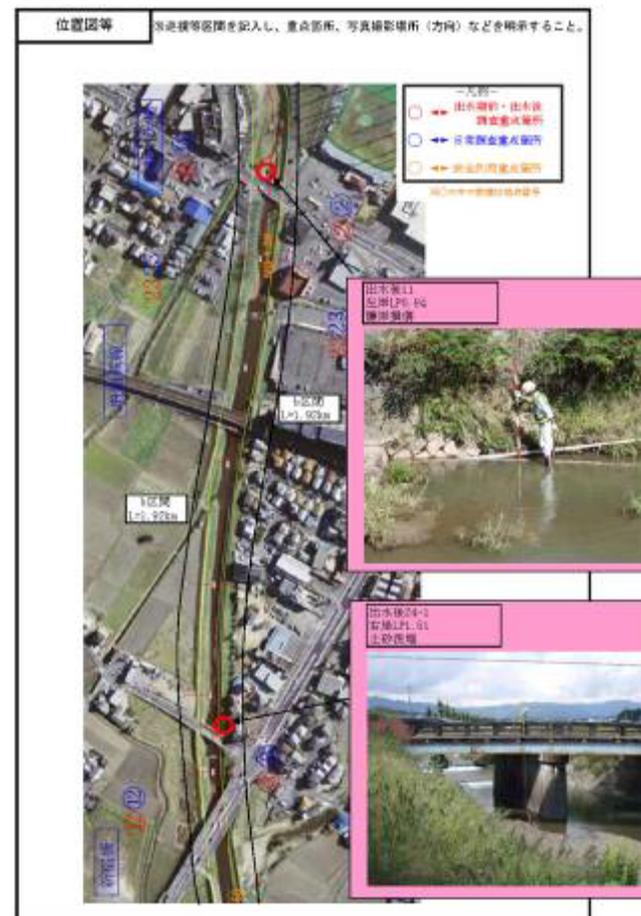


写真 河川巡視の状況

河川整備計画（本文）

（河床の維持管理）

圏域内の河川において、河川の流下能力の確保や河川管理施設の機能に影響を与えないように調査・検討を加え、河床の維持管理に努めます。その際に、地域住民や学識経験者の意見を参考にし、生物環境などにも配慮していきます。

掘削により生じた建設発生土は、他事業への有効利用に努めます。

（湖岸の維持管理）

琵琶湖岸については、侵食などの状況を把握するとともに、必要が認められた場合には、「琵琶湖湖辺域保全・再生の方針」に基づき、砂浜の保全、再生やヨシ原の保全などの対策に努めます。

（河川環境の保全）

圏域内の河川において、住民が河川に親しみ、憩いやふれあいの場となるような河川環境の保全に、広く地域住民と行政が協働して取り組めるよう努めます。また、草刈りやゴミの除去についても住民と行政の協働による啓発や収集活動による適正な管理に努めます。さらに、学校教育などと連携し、子供達の河川での自然学習を通じてモラルの向上に取り組んでいきます。また、地域住民などが親しめる河川空間を創出するため、河川環境の整備に努めます。

長い年月を経て刻々と変わりゆく河川の自然環境を知ることはその維持に必要な不可欠な事項であり、生物調査を含む環境調査の実施を検討します。また、その際には、関係機関や地域住民と協力して行い、できる限りその情報を公開していくよう努めます。

一部区間で見られる河道内樹林は、生態系の保全など良好な河川環境の形成に重要な役割を果たしています。そのため、治水上河川管理に支障が生じた場合や、外来種対策の必要が生じた場合については、有識者・地域住民などの意見を参考に伐採などを検討します。

出典・根拠

表 各河川の類型と基準点

分類	河川名	類型	基準点
北湖流入	真野川	A	国道 161 号との交差点から下流 150m 地点
南湖流入	天神川	A	国道 161 号との交差点
	雄琴川	B	国道 161 号との交差点から下流 200m 地点
	大正寺川	B	国道 161 号との交差点から下流 300m 地点
	大宮川	A	旧国道(現大津市道)との交差点
	際川	B	国道 161 号との交差点から上流 50m 地点
	柳川	A A	新柳川橋
	吾妻川	A A	大津湖岸線との交差点
	相模川	A A	大津湖岸線との交差点
瀬田川流入	兵田川	A A	県道大津湖岸線との交差点
	盛越川	A	県道大津湖岸線との交差点から上流 50m 地点
	三田川	A A	国道 422 号との交差点から上流 100m 地点
	多羅川	A A	国道 422 号との交差点から上流 150m 地点
	千丈川	A	国道 161 号との交差点から上流 150m 地点

（注） は環境上の基準の類型指定河川（市河川）、それ以外は環境基準の類型指定河川（県河川）。

河川整備計画（本文）	出典・根拠
<p>（河川占用および許可工作物の設置などへの許可・対応）</p> <p>河川占用および新たな工作物の設置ならびに施設の改築などについては、本整備計画ならびに他の河川利用との整合を図りつつ、治水・利水などの視点から支障を来さない範囲で基準を満たしたものを許可します。</p> <p>許可工作物の維持管理に関する指導・監督については、河川の許可工作物として堰および橋梁などが設置されており、これら工作物について河川管理上において支障となることが予想される場合は、施設管理者に速やかに点検・修理などの実施についての指導・監督を行います。また、河川工事実施の際には、施設の占有者と十分協議し、必要な対策を講じていきます。</p> <p>また、河川利用を妨げる不法投棄・不法占用などについては、必要に応じて流域自治体や関係機関と連携し、監督処分を含めて指導・管理の徹底を図ります。</p> <p>（流水の管理）</p> <p>圏域内の河川において、現在生息する水生生物が持続的に生存可能な水質も含め、将来にわたり安定した河川水による良好な河川環境が維持されるよう、河川管理者、利水者および地域住民などが協働して取り組みます。また、水源として森林を保全する種々の取り組みについて支援していきます。さらに、様々な機会をとらえて水利用の節約や工業用水のリサイクルの推進などの家庭・企業および農家への啓発を行ない、地域レベルでの水循環の回復を促進します。</p> <p>流域全体で、将来に渡り健全な水質・水量が維持されるよう、今後とも地域住民や関係市、利水者と連携して適切な水管理・水利用を図っていきます。</p>	

河川整備計画（本文）	出典・根拠
<p>3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項</p> <p>3.3.1 河川への流出量の抑制</p> <p>近年、森林の荒廃や、宅地開発などが進み、洪水時の流量増加が懸念されていることから、琵琶湖総合保全整備計画に基づき、浸透貯留域が果たす河川への流出量の平準化の働きを高めるため、すでに設けられている農業水利施設や農業用ため池の保全、整備と適正な管理などの施策を適時適切に進めることにより、施設本来の役割に加え人為の貯留機能の向上を関係機関などと連携して促進し、併せて保水機能の保全や流出抑制の啓発に努めます。</p> <p>また、圏域内の開発行為については、開発区域周辺および下流地域に溢水などの被害の生じるおそれがある場合、開発者に対して、開発に伴う雨水排水計画基準（案）などにより、対策となる工事を行うよう指導します。</p> <p>3.3.2 総合的な土砂管理に向けて</p> <p>琵琶湖の砂浜湖岸は、山地の供給源から河川を通じて河口へと流れて堆積した土砂が、湖辺域の沿岸に流されて形成されています。</p> <p>これまで、土石流などの土砂災害や、過剰な土砂供給による河道内での土砂堆積・河口部の閉塞など、上流からの土砂に苦しめられるなか、その対策として治山事業、砂防事業で土砂の流れを調節したり、また河川事業や砂利採取により堆積土砂の除去を行ってきました。さらに治水・利水ダムを設置は、結果として下流部への土砂の流出を抑制しています。</p> <p>こうした土砂供給の減少は、河床の低下や湖辺域での砂浜侵食などを招くこととなり、砂浜侵食に対しては、突堤や養浜などの対策を実施してきました。</p> <p>平成4年頃から琵琶湖湖岸の侵食災害が頻発するようになり、これらに対して突堤や養浜などの対策を実施していますが、一方で汀線がのこぎり状に安定し本来の湖岸景観が失われるとともに、砂浜の砂の動きが停止し植物が侵入するといった更なる問題点も指摘されています。</p> <p>今後は、山地から河道、湖辺域に至る連続した土砂移動のダイナミズムを回復し、動的平衡状態の中で、土砂の量と質（粒径）のバランスのとれた河川・湖岸の実現を目指すことが理想です。</p> <p>しかし、流域全体での土砂移動に関しては、解明されていないことが数多くあります。このため、個々の砂浜や河川における課題の状況に応じて、山地から河道、湖辺域への連続した土砂移動の把握や、実現可能な対策を、長期的課題として検討します。</p>	

河川整備計画（本文）

3.3.3 川に関わり、川に親しむ地域社会の形成

河川の豊かな自然環境を保全し、次の世代へと引き継いでいくためには、地域住民の理解と協力が不可欠です。このためには、人々が川に関わり川に親しむことによって、地域社会と川との日常的な繋がりを深めていくことが必要であり、次のような事項の推進に努めます。

- (1) 川づくり・流域づくりを進めている地域活動および学校教育などとの連携を図り、河川愛護月間などにおける行事や河川に関する広報活動を通じて、河川愛護の普及・啓発に努めます。
- (2) 河川の整備・保全・維持については、河川に関する情報を広く積極的に提供し、地域住民などとのコミュニケーションの充実を図り、官民一体となった河川管理ができるよう努めます。
- (3) 川の施設を拠点とした地域活動団体などと連携し、地域住民にふれあい、学び場、機会の創出を行っていくことにより、地域に親しまれる川づくりに努めます。
- (4) 古くからの川と地域住民とのつながり、川にまつわる地域文化が今後も継承されるよう協力していきます。
- (5) 河川環境のモニタリングを地域住民と協力して行うとともに、その情報を公開していくよう努めます。
- (6) 上記のような地域社会と川との日常的な繋がりを深めるための取り組みを通じて、地域の中での川や湖を守る活動を支援します。

3.3.4 水量・水質の把握

河川の適正な流水管理を行うため、継続的な雨量、水量、水質などの把握に努めます。またこの際、河川管理者の観測データのみを利用するのではなく、より広範なデータの収集に努めます。

出典・根拠



写真 第2回 藤ノ木川川づくり懇談会



写真 第1回 淡海の川づくり検討委員会 真野川部会

真野川		
真野川川づくり会議	第1回	平成13年10月28日
	第2回	平成13年11月18日
	第3回	平成14年2月3日
	第4回	平成14年7月27日
	第5回	平成14年9月29日
	第6回	平成14年12月8日
	第7回	平成15年9月14日
淡海の川づくり検討委員会 真野川部会	第1回	平成15年12月6日
	第2回	平成16年2月16日

大宮川		
大宮川川づくり懇談会	第1回	平成15年5月19日
	第2回	平成15年6月22日
淡海の川づくり検討委員会 大宮川部会	第1回	平成15年12月9日
	第2回	平成16年1月13日

藤ノ木川		
藤ノ木川川づくり懇談会	第1回	平成15年5月19日
	第2回	平成15年6月22日
淡海の川づくり検討委員会 藤ノ木川部会	第1回	平成15年12月9日
	第2回	平成16年1月13日

表 過去の川づくり会議及び淡海の川づくり検討委員会の開催状況

表 大津土木事務所管内の河川愛護団体

河川愛護団体	三田川をきれいにする会、ふるさとの盛越川を美しくする会、四ッ谷川を美しくする会、田上の河川を美しくする会、吾妻川を美しくする会、堅田神辺湖岸を美しくする会、際川を美しくする同土会、小野
--------	--

出典：滋賀県ホームページ

4. 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項

4.1 平常時における連携強化

河川管理者、関係機関（防災部局・都市計画部局など）、関係市町などと連携し、超過洪水時の被害を最小化するために必要な対策を総合的・継続的に検討し、実施します。

4.2 洪水時の連携強化

洪水時の連携を強化するため、「平常時の備え」と「緊急時の体制」について対策に取り組みます。

「平常時の備え」については、雨量観測所、水位観測所を集中管理して雨量・水位などの情報を伝達し、さらに市に対し雨量や水位が危険水準に達した時に自動的にオンライン伝達する「滋賀県土木防災情報システム」を整備しています。また、ホームページや「しらしが」（しらせる滋賀情報サービス）プッシュ型メール配信）、地上デジタルテレビ放送（NHK、びわ湖放送）による河川水位情報などによりリアルタイムで防災情報などを住民に提供できるよう整備しています。今後、10分観測情報の配信やこれにかかるテレメータ高速化を順次整備し、CCTVカメラについても配信できるようにするとともに、情報発信について「より早く」「より分かりやすく」「より確実に」するための整備を行い、河川の管理水準向上を目的としたリアルタイムシュミレーションを目指します。

「緊急時の体制」については、彦根地方気象台などから水防活動に関する気象予報警報の通知があった場合、県庁に水防本部を設置すると同時に水防体制に入るものとします。水防体制下では降雨状況、河川水位などの監視を行うとともに、雨量・河川水位の状況などから河川パトロールが必要であると判断した場合には速やかに現地確認などで情報収集を行い、水防活動に必要な情報を関係市や機関に連絡するなどして、水防活動や避難行動を支援します。また、土砂災害に関する防災情報を把握し、効果的に提供するとともに、関係市や機関と連携して土砂災害による被害軽減に努めます。

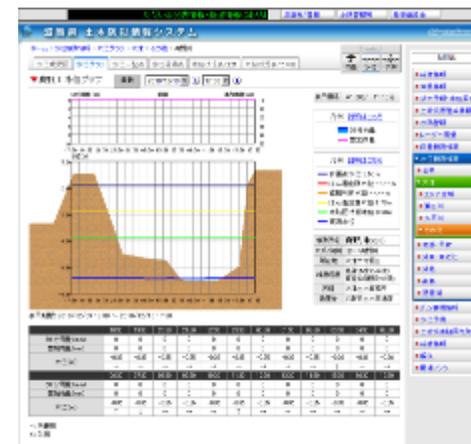


図 水位情報等の提供（滋賀県土木防災情報システム）

出典：滋賀県ホームページ

滋賀県土木防災情報システムはこちらから

パソコンで見える場合：<http://shiga-bousai.jp>

携帯で見える場合：<http://shiga-bousai.jp/mobile>

河川整備計画（本文）

出典・根拠

4.5 地域防災力の向上

過去の水害の歴史を記録保存し、次の世代へと継承するよう努めます。また、本整備計画に基づく河川改修により「全ての水害がなくなる訳ではない」ということを地域住民、関係機関に広く啓発するよう努めます。さらに、インターネットなどを活用して、圏域内のはん濫特性を示す地先の安全度マップ⁶や河川の流下能力、堤防点検結果を流域住民に提供し、水害に対する意識の高揚を図ります。

また、「滋賀県水防訓練」や県および市の水防関係の初任者を対象に水防意識の高揚と水防工法の習得を目指した「水防研修会」を実施します。県と市の間の情報伝達訓練などを行なうことにより、平常時から水防体制の円滑な運営に努めます。

6) 地先の安全度マップ

河川だけでなく身近な水路のはん濫なども想定した、人びとの暮らしの舞台である流域内の各地点の安全度を示す図面のこと。(平成 23 年 6 月 精査・確認作業中)

4.6 超過洪水時の減災効果のある河川管理施設の整備・保全

真野川、大堂川、家棟川などをはじめとする圏域内の築堤河川のうち、破堤が生じた場合に壊滅的な被害が想定され、かつ、当面の間、下流リスクとの関係などから)築堤が制限されたり平地河川化など抜本的な破堤回避対策の実施が困難な区間については、被害を極力軽減するため、堤防の侵食対策や浸透対策にあわせて堤防天端の舗装など越水にも資する対策や、水害防備林などの整備・保全など堤防強化以外の減災対策も必要に応じて検討し実施します。なお、流況や堤防の形状、背後地の利用状況などから、越水が生じる想定頻度や破堤時の被害の大きさを勘案し、差し迫った危険性が予見される箇所から優先的に対策を検討・実施していきます。

「滋賀県中長期整備実施河川の検討」におけるTランク河川

河川ランク	河川名
Tランク	吾妻川、大宮川、大堂川、藤ノ木川、真野川、家棟川、際川

Tランク河川：堤防の質的強化やはん濫流制御を図る河川



写真 滋賀県水防訓練の状況



写真 水防研修会の状況

④ Tランク河川一覧（案）

管内	河川名
大津	吾妻川
	大宮川
	際川
	大戸川
	大堂川
	草津川
	高橋川
	藤ノ木川
真野川	
	家棟川（大津）

□：志賀・大津圏域対象河川

◎本表は管内毎に五十音順にならべたもので優先順位を示すものではありません。今後、順次堤防点検を進め、調査・検討を踏まえて優先度を決め、対策を進めるものとします。今後、データの蓄積に伴い、見直すことがあります。

出典：滋賀県中長期整備実施河川の検討結果『河川の選定結果』平成 20 年 10 月

5. 付則資料 志賀・大津圏域位置図（対象河川及び整備区間）



